廃墟にて

悲劇のM

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

廃墟にて

【Ｎコード】

Ｎ１２１３Ｆ

【作者名】

悲劇のＭ

【あらすじ】

某掲示板のあるスレッドの幽霊をツンデレ化した。それだけです。

俺が住んでいた町に廃墟があった。
２階建てのアパートみたいな建物で、壁がコンクリートでできていて、ガラスがほとんど割れ、壁も汚れてボロボロだったから、地元の人間でもあまりこの場所に近づくことはなかったらしい。
ある日俺は、友人と肝試しをすることになって、この廃墟に行くことにした。
まだ昼ぐらいだったから、建物の２階まで上がって建物を探索した。
そしたら並んでいる扉のひとつに、文字が書いてあるものがあり、友人と近づいて確認してみた。
「わたしは　このさきの　へやに　いるよ」
そんなことが書いてあった。
一瞬キョトンとしたが、俺と友人は扉を開けて中に入り、先に進むことにした。
歩いて行くと分かれ道に突き当たった。壁にはまた文字がある。
「わたしは　ひだり　に　いるよ」
少し怖くなったけれど、俺と友人はそのまま左に進むことにした。

すると両側に部屋があるところに突き当たった。
「あたまは　ひだり　からだは　みぎ」
右側の壁に書いてあった。
友人はこれを見た瞬間に、半狂乱になって逃げだした。
でも俺はその場所にとどまって、勇気を出して右の部屋に行くことにした。
そこには、年の頃自分と同じくらいの女の子がいた。
今思えばそいつが幽霊だってのは確実だったのに、俺はそのことなんか忘れてた。その女の子に聞いてみた。

「どうしてこんなとこにいるの？」
すると、どういうわけかその女の子は突然泣き出した。泣きながら、俺に言の葉を向けた。
「あなたは逃げないの？」
そこで俺は気づいた。そいつが幽霊だって。けど、不思議と俺は怖くなかった。
「どうして？」
「ここに来る人達、私を見たらみんな逃げ出すの」
なんか親近感みたいなのを感じたらしく、俺は冗談めいた口調で聞いてみた。
「じゃ、俺が逃げないから嬉しいんだ？」
「そ、そんなわけないでしょ！　私はね、逃げる人達をみて楽しんでたんだから」
「そう、じゃ俺も逃げるとしようか」
俺はそいつに背を向けて帰ろうとした。けど、そいつは俺を制止した。
「ま、待ちなさいよ」
「なんだよ」
「も、もうちょっとゆっくりしていけばいいじゃない」
気付けば、そいつの顔が尋常じゃなく赤かった。それこそ茹ダコみたく。
「寂しいんだ」
俺は苦笑いに似た笑いを作った。
「あ、あんたなんか大嫌い」
今度はそいつが背を向けた。俺は何を思ったのか、そいつを後ろから抱きしめた。
「な、何すんのよ！！」
「ごめんな、もうちょっとこうしててていいか？」
「……しょ、しょうがないわね、あんたがそういうなら……」
どれくらいそうしてたかわからない。あの時の良い匂いは今でも

鼻に残っている。まぁ、今俺のベッドで寝息立ててるのがその時の彼女なんだがな。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1213f/

廃墟にて

2010年10月30日09時37分発行